

学校概要

創立	140周年	学校長	市川 幸男	副校長	河村 淳司	学期	2	学期制	児童・生徒数	228人
学級数	一般級: 8	個別支援級:	2	主な関係校: 飯島中学校 大正中学校 南戸塚中学校						

学校教育目標

○分かる喜びやできる楽しさを味わうことを通して、確かな基礎・基本の習得のもと、自ら問いかけ、自ら解決する子どもを育てます。  
 ○多様な触れ合いの場を通して、お互いの良さを認め、自分を高め、よりよく生きようとする子を育てます。  
 ○体力づくり・仲間づくりを目指した体験的活動を充実させ、命の尊さを知り、健やかな心と体を育むために努力する子を育てます。  
 ○体験的触れ合い活動を充実させ、地域に学び、地域を愛する子を育てます。  
 ○伝える・聞くなどのコミュニケーション力を育て、食・福祉・環境などの今日的課題についての考えを深め、実践する子を育てます。

学校の特徴

○豊かな自然と古くからの伝統・遺物が残され、「ふるさと感」を強くもてる学校であり、生活科や横浜の時間の教材が豊富である。  
 ○保護者・地域からの期待は大きく、PTA活動や学校ボランティア活動にも積極的に参加するなど協力的である。  
 ○授業づくりに熱心な職員が多く、学び合う姿勢が生まれている。  
 ●基本的な生活習慣・社会生活への関心を高め、自立への支援を推進する必要がある。  
 ●学力状況調査等の結果から、基礎・基本の確かな習得、及び、学習力の育成に継続して取り組む必要がある。

学校経営中期取組目標

○学校教育目標を実現するために、全ての児童が豊かに自己実現できる学校づくりを目指します。  
 ・分かる喜び、できる楽しさを成就する授業づくりの推進のもと、本校に学ぶ全ての子が、自分の学びに自信をもった姿が育成されています。  
 ・多様な触れ合いの中、心と心を通い合わせ、個性あふれる人間性と豊かな社会性をもった姿が具現化されています。  
 ・体力づくり・仲間づくりを目指した多様な運動機会を充実させ、全ての子が、命の尊さを知り、健やかな心と体を育むために努力しています。  
 ・本校に学ぶ全ての子の幸せのために小中一貫教育推進ブロックや家庭・地域と連携し、信頼に応えられる学校づくりを進めています。  
 ・本校教職員が相互に啓発・連携し、熱気と活気にあふれた学校運営組織が確立されています。

小中一貫教育の取組

飯島中学	ブロック	飯島中学 千秀小学校 飯島小学校
9年間で育てる子ども像	・体験的な学習や課題解決的な学習を基盤とし、一人ひとりが認め合い共に学び合う子どもたちを育てています。	
自校の具体的取組	・確かな学力の育成・豊かな心の育成をブロックの重要課題と位置づけ、その具現を授業研究のテーマとして設定し、各教科・領域において課題解決を目指した授業を展開する。(ブロックで年3回の授業交流をする) ・児童生徒の交流日に、6年生が積極的に参加し、中学校との交流と不安の解消を図る。 ・教務主任会や専任会などで得た情報を基に、自校の「各種スタンダード」の改善・共通化を進める。	

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力	基礎・基本の定着を基盤に、個の思考・集団での思考(学び合い)を重視した授業を推進し、主体的な問題解決能力と表現力の育成を目指します。	○家庭学習と連結したマンベータタイムの推進及び、スモールステップでの習得状況の把握を通して、基礎・基本の徹底を図る。 ○課題把握・自力解決・集団での思考の磨き合い・課題解決の学習スタイルの導入を進め考える力の育成を図る。合わせて、言語活動の活性化・学習力の育成も視野に入れていく。
豊かな心	よりよい人間関係を築いていこうとする姿を価値付けするとともに、子どもの自尊感情を育て、自分を大切にすることを育てます。	○スマイル活動、あいさつ運動、地域との交わり等、多くの人との交流の機会を大切にし、心の満足感のもと、自分の居場所づくり、人への思いやりの心を高めていく。 ○道徳教育の充実、体験的活動の充実を進め、全人的な情意の育成を図るとともに、社会生活における道徳的実践力・判断力の育成も図っていく。
健やかな体	各種運動機会を大切に体力の向上を目指すとともに、基本的な健康生活に関する意識付けを図り、安全への対応力の育成に全校で取り組む。	○体力テスト等各種検査に基づいた体育科授業の改善を図り、運動のもつ良さの体験を重ね、運動意欲を高め、調和のとれた身体の成長を図る。 ○多様な運動機会を提供し、運動生活の日常化を図り、逞しい心身の育成につなげる。 ○各種防災・安全に関わる教育の中、危機意識の育成・健康生活の良さの実感を図る。
児童生徒指導	全職員が児童とのコミュニケーションを大切にし、その理解に努めるとともに「学校スタンダード」を共有し、いじめのない安心感あふれる学校を目指します。	○学校生活のあらゆる場面で児童に寄り添い、児童の多様な理解を進める。 ○各種検査の定期的・継続的な実施をし、課題の把握、課題を抱える子への共通した全校サポート体制を一層整備していく。 ○家庭、児童育成に関係する機関との連携を密にし、社会全体で育成を図っていく。
教育課程学習指導	児童の学習意欲を高め、学ぶことの楽しさを体感できる授業の改善が常に進められている。また、教科領域の枠を越えた柔軟で横断的な取り扱いも進めます。	○少人数指導・習熟度別指導の積極的導入を図り、すべての児童に「分かる」「できる」を実感させ、学習成就感を高める学習指導を実践する。 ○教科・領域の枠にとらわれず、関連する事項を結びつけた横断的な取り扱いを進める。合わせて、アクティブラーニングの導入を図り、問題解決能力の育成を進める。
地域連携	学校運営協議会・チーム千秀を中心とした保護者・地域のサポート体制を活用し、一層の開かれた学校づくりとともに、地域の教育力の導入を進めます。	○学校運営協議会の学校理解を今まで以上に図り、経営への参画・協議会からの発信を進めていく。 ○チーム千秀・PTAを中心として、地域・家庭の教育力の学校教育への積極的な導入を図る。特に、周年行事の推進・実施においては、学校・保護者地域が一体となって進めていく。
特別支援教育	一般級と個別支援学級の連携を密にします。さらに困り感をもった子どもへの、共感的支援を進めます。また合理的配慮に対する職員の理解も進めている。	○インクルーシブ教育の推進を図り、個々の子どもに合った形で多様な交流を進める。 ○個別支援教育の充実については保護者の理解を図り、保護者と共同歩調を重視して経営を実践していく。 ○困り感をもった児童への共感的支援を進めるため、組織的な取り組みの整備を図る。
人材育成・組織運営	指導改善を推進する研修や職員間の情報交換の活性化から常に自らの専門性を向上させる教職員の育成が図られています。	○メンターの研修、中堅教師の研修等、それぞれのキャリアに応じた教師力の育成を図る。 ○職員全体が学校教育目標の具現をめざす目的集団となることを目指し、自由で関連な情報交換やコミュニケーションがとれる職場づくりに勤める。 ○ICTの活用、事務の見直し等を進め、仕事の効率化を図り、早い時間の退社を促す